

ネ
ツ
ト
リ
洗
脳



成人向

ハルユキ

この格好って
ネットなのか？

「J・J」は

違いますよここは
リアルです

その愛らしい
蝶の衣装を用意
したんです

病院で寝ていた
あなたをわざわざ
ここまで運んで





意識のなかった
私になら
弱小のキミでも
勝てたろうに

なるほどキミが
シアン・パイルか

どうい
つもりかな
これは？

まあ今の私からでは
得られるポイントも
わずかだがね

ポイント？

とんだ誤解だ
そんなモノだけの
ためにボクがこんな
手間をかけたとでも？

みんなから
狙われる
最強で最悪の
賞金首

その弱点を掴んだ

ボクだけが
ブラック・ロータスの
正体をリアルを
知っている

1:1

フミ



この好機は
最大限利用
しなきゃね

ボクがちよいっと
メールでみんなに
報せたら
あなたはお終いだ

な
キミはドコを
触っている!

離れる!

黒の王も
所詮リアルでは
クールぶつた
ただの小娘



下手したら
殺されるかも
しれませんよ

リアル割れ
したら

拉致られ
煽られる

マンコを弄られれば
泣いて喚く
弱いガキだ



あなたはボクに
逆らえない
雌奴隷なんですよ



あまり私を
舐めないで
欲しいな



そう
そう
なきや

少しは抵抗して
貰わないと
盛り上がり
ですよね



簡単に
音を上げない
下さいよ

うっ
キサマ





あぐ
ここのんなはひい
とつめ

カチ
カチ
カチ

いぎやああああ



ダメだ!
耐える!
耐えるんだ!

ハハハ

はあ

はあ

こんな奴に
屈服するな



どうなっっちゃ
うんでしょう??

でも
ここまで
やられたら

流石は
黒の王だ



ウキウキウキウキウキウキ

まだクリを挟んだ
だけでそんな反応
とは電撃を流したら
どうなっちゃうのか
楽しみですよ



やめろおお
ダメ!ダメ!
やめてえええ!

頼みますよ
違いますよ
雌奴隷さん

ハキ

ヒヤハハハあの
ブラック・ロータス
がお漏らし

あんなに
強がつてたのに
こんなあっさり
漏らすなんて
バカ過ぎる

ティ
ヒョ
オオ
オオ
オオ
オオ

ムリもうダメ
こんな痛いの
耐えられない

もう
と・とめて

え？
なんです？

と・ひよめ
れんきおねら
いらから

なんですか
よく聞こえ
ませんよ

ひゃひい

マンひよに
チンポれも
何でも入れれば
いいでしょ！

犯していい
ひやられんきもう
ひよめへえ

まだ口の
きき方が
なつて
ませんが

初回サービス
で良しと
しましょう

もし
逆らえれば

戒めが解けた
からつて
へんな気を
起こさないで下さい

今度は
止めよ
せんま

ひい



ようやく
立って
きましたよ



ほら自分で
おっ立ってた
おちゃんポを
じっくり見て
下さい

いやあ

見ろと言って
るんです

聞き分けが悪いと
今度はその
ケツ穴に
高圧電流ですよ



うぶうう

ははは



ホントに覚えの悪い奴隷だ

おい！まだ余ってるじゃないか勝手に口から放すなよ



いや？
なんだボクに
の逆らうか？

すいぜいやなら
やるよ

ただし
罰は受けて
貰うがな

電撃は
もういや

じゃあそろそろ
下の口も楽しませて
もらおうかな

い...いや



ならわかるだろ？

わ・私の処女
マンコに・
チンポを突っ込んで
下さい

うっ

はっはっはっは
そうだよ
最初からそうやって
従順にしている

チュ



イヤだああ
こんな奴にキス
されて私感じてる

キモチ良
く
な
っ
て
き
て
る

うぶっう



快感が止ま
ら
な
い
だ
ろ



電撃はいやああ

なんだよ
言えない
のか？なら
お仕置き
かな



やーやめ
ちやんと
言うから



ほら！
タクト様の
おちんぽ
良かったですって
お礼はどうした？



いやだああ
私はハルユキが

ボクの雌奴隷として
生まれ変わるんだ

さあ教えてあげるよ
脳が焼ききれるほどの
快感つてやつを
そして



流れくる私の中
にたくまの愛情
がとみいやない
きもひいよあお

あんなブタのことは
忘れさせてやるよ

チンポもって
お願いだから
フチ込んで

くだしゃい
オマンコ
さびしいんれしゅ

だ、誰だ
こんな
品の無い
ことを

な！
わ・私が
言ってるのか！

タクト様あ

なんで！どうして！
私の体が
口が勝手に喋る

オひんぽ
くだしゃい

じゃあ
特別に
チンポを
やろう

いい子だ

ありがとう
ございました

雌フタに
お慈悲を

おほおおお
キモヒイイ

やめろおお





快樂が
オチンポが
私の中で
はビクビク
はねてるううう

いいれしゅうたくト様の
愛のザーメンが
雌フタマンコに
流れ込んできましゅううう

お恵み
ありがちゅうううう
ごじやいましゅううう

ゴボッ
ゴボッ

だめだ
ごんなの
頭がおかしく
なりゆううう

本当に自分が
オチンポ
欲じがつてる
みたいにな
つちやううう



彼女には淫夢の中
でも淫夢を
見てもらう

起きるまで
夢は終わら
ないよ

そして
起きる頃には
ボクの従順な
雌奴隷だ



まだまだ続く！
地獄のネットトリ洗脳

すでにブラック・ロータスの体は堕ちた。だが、強靱なその心は屈指ない。ネットの世界でならこれで、いくらでも奴隷にできる。しかし、現実に戻れば……。だからまだだ。彼女の心もボクのモノに。しなきやいけななんだ。催眠状態を解きチンポに小突き回され、それ自ら求める夢を見続け憔悴しきつた黒の王をボクは見る。その目は濁り、生気が無いように見える。だが違う！その奥底には隙あらばボクを食い殺そうとする。炎が宿っている。油断は出来ない。「も、もういいでしょ、許して」許す？何をわけのわからないこと言っている。

まだお前は心底ボクに屈服してないじゃないか！まだボクに敬愛の眼差しをむけてないじゃないか！

「許して欲しいですか？」

「はい、許して下さい！」

涙と涎で汚れた面で

哀願する黒の王。

それは芝居なのか？

本心なのか？試してやろう。

「なら、

『私はタクム様に

一生涯御使います

精液肉便器の雌奴隷

でございます』って言ってくれ

「……一瞬の沈黙。

テストは終わった。この雌はボクに忠誠していない。

「どうしたんだ？」

「わ、わかりました」

渋々といった様子で

言葉を復唱する雌。

「よしならそれを3分以内に

100回、噛まないようにね

失敗したらキツイお仕置きだ。

はじめ！」

「そ、そんなのムリよ、そんなのって」

「はい(笑)失敗だ」

「う、ウソよ私にも」

「挑戦中は

忠誠の言葉以外は

発しちやだめだよ」

雌に洗脳装置を被せる。

「いやああああああ」

「いくらいやがってもダメだよ」

「さあ、次は自分で好きな

お仕置きを選ぶといい」

雌の前にボクは

お仕置きメニューの

ウインドウを開く

それを見たメスは絶句する。

・笑い発狂

・射精地獄

・丸呑み

・産卵陵辱

「どうした選べないなら

ランダムになるが」

「ゆ、許して」

「お仕置きを耐えたら、

また忠誠の言葉を

言うチャンスやるから」

笑い発狂

涙をしたたらせ
嗚咽しながら雌が選んだのは
笑い。

触手によって固定された手足、
身動きできない雌の脇や足裏を
容赦なく触手たちが撫でる！
「ひひひひひやめへえええ息がれきない」
涙を浮かべて雌が、
笑い続け様はじつに滑稽だ。
「いひひひいあぎやあああああ」
既に開始から3時間だ。
普通なら発狂してもおかしくないが、
雌はまだ耐えている。
流石は黒の王か。
「おほほほいひひいお」



足裏にはびっしりと
しきつめられた触手の床。
その一本、一本が、敏感な
足裏を丹念に舐めましてゆく。

その体感には想像するだけ
でも怖気が走るものだ。

5時間…6時間…7時間
…10時間



「ひいひいひいひいぶもうひやめへええ」
「ふううあひいひい(笑)ひいびっぴ」
もう雌は何を言っているの
かもよくわからないが、
体液でグジョグジョになったアヘツラで
笑いつつに滑稽でこっちまで笑えてくる。

「ご苦労だったね」

主人を無視する奴隷。まだお仕置きが足りないのか？

「おい、返事はどうしたんだ」

「はい、ありがとうございます」

か細い声でようやく返事する。やはり舐めきられている。

「じゃあ、忠誠の言葉だ。始め」

「お願いれしゆからもう、もう許して下さいタクム様」

「もうしやからいませんから!!」

「そんな言葉じゃないよね」

「じゃあもう一回お仕置きだ」

「ひい、いやあもういやなんれしゆ!!」

二度目のお仕置き

奴隷が選んだのは射精地獄だ。

選んだ瞬間。奴隷の股間に

チンポが生える。それは「こ」がネット!

バーチャルだから「こ」そありえること!!

当然玉も付けてやった。

これで何千回でも射精の

快楽を味わうことが出来る!

「な、なんで私のアツコにオチンチンが

何本ものブラシ触手たちにチンコを

シゴカレまくる奴隷。

「やあ、これダメ!止めていやああ」

一度目の射精をあっさりとしてしまおう。

一度してしまえばもう止まらない。

連続百回射精もあつという間だろう
「おひい！なんなのこれ、頭壊れちゃうう。
なんで私女の子なのに男の子みたいにおチンポ生やしてザーメンをブリブリひりだしやなきやいけないのおお」

「また射精しちゃう。
オチンポ！ピクン！ピクン！って
でっっちゃウウウー」

暴れる奴隷の手足に触手が巻き付き
体をあらぬ形に固定され
雌ブタはひたすらに強制射精をさせられる。
「いひいおチンポきもひいひいの
とみやらにやいよおお」
サオただけでなく玉までももみじだかれ
チンポからまたザーメンが
とめどなくほとばしる。

「さあ忠誠の言葉を言えるチャンスだ」

「はひい」

ウツロな瞳で応える奴隷。

ようやくボクの偉大さがわかってきたらしい。

そしてポツポツと言葉を復唱し始める。

順調に思えたそれもたったの

4回目で嚙んでしまう。

「なんだもう嚙んでしまったのか？」

「ひいひいもういれいれしよ、しよ、しよ」

「ちやんと言うから！言うから！」

「ダメだよ。しっかりとやりきらなきゃ」

次のステージにはいけない」

そして奴隷には丸呑みのお仕置きを食らわす。

「いやああ飲まれるこんなものやああ」
巨大な化け物の触手に飲み込まれる奴隷。



「さああ三度目の挑戦だ」

「ひいひい、ふうふうふう」

「いいいな」

「はいはい」

「奴隷はゆっくりと噛まないように忠誠の言葉を復唱し始める。」

しかし、89回目でも無情にも。

「時間切れだ。残念だったね」

「そ：そんにや、そんにやのって」

そして奴隷の四度目のお仕置き『産卵』が始まる。

化け物のマユに捕えられた雌。

体を肉壁に埋め込まれ指一本自分の意思では動かせない。身体を敏感にさせる興奮ガスが吹き出る。

マスクを口にあてられ、強制的にガスを吸わされる雌ブタ。

すでにガスが体中に回り力が入らずぐったりとしている。マンコには常にぶつと触手が捻じ込まれ、機械的にピストン運動を繰り返す。腹に卵とザーメンを送り込み続ける。「あうっひううはひい」数時間この状態が続く。意識はもうろうとしていられ口からでる喘ぎ声も断片的だ。

「出りゆう卵でちやうつう」

小さな穴を押し広げ、裂いて、無理矢理に卵がまた排出される。

「これでもう何個の卵を産んだのか。
もうひい、やあ、あ産卵い、やあ、ああ」

腹がすつきりすれば出ない母乳を
搾乳しようと触手が
小さな胸と乳首を弄り回す。

そしてまた膣に当てられた
触手からは大量の卵が膣内へと
ザーメンとも流され
腹の中で育った卵が排出される
終わりの無い産卵サイクル。



「えひいいい卵まぢや産んじやう」
「産卵きもひいいいよ」
もつろ卵欲しいのおおお」

すでに何十個と生んだ卵が
雌ブタの下に転がり
卵から帰ったおぞましい
化け物にも雌ブタは騙られている。
「アヘアヘアへへ赤ちゃんもつろ
もつろお腹いじってマンコ！
付き回してきもひいいいの
もつろもつろちようらいいいい」

彼女の精神は墮落した。
これでリアルに戻っても
ボクに逆らうことはないだろ。

病室

雌ブタ奴隷が目覚めた。
彼女が最初に
見つめたのはボク。

ボクの隣で困惑している親友。
「あ、あれセンパイとタクツて
知り合ってたの」

「ああ、黙っててゴメンな、
古い付き合いなんだ」
顔を塞ぎ演技するボク。
バカな親友はあっさり
と騙される。

「彼女昔からボクのことを
好きらしくてさ」
親友の困惑はさらに
深まりそれを必死に
隠そうとしている。

「でもボクにはチュがいたから
ずっと断っていたんだ
そしたらハルのことをどこか
で知ったらしくてさへんな
ちよっかい出してらって、
チュから聞いたぜ」
親友の顔が絶望に沈む。
「どうなんだ黒雪姫」



ボクはぼんやりとしている
雌奴隷の方に顔を向ける。
彼女は目に涙を浮かべて。
「はひいごめんなさしやい
タクム様に見てもらいたくって
必死だったんでしゅ」
とボクに熱い眼差しを
向ける雌ブタ奴隷。
「ごめんね！ハル君
純色の六王とか私が
黒の王とか全部嘘なの」
「全てはタクム様の視線を
この卑しい私に少しでも向ける
ためだったのごめんねハル君」
「いいんですよ……は……はははは
乾いた笑い。
涙を必死に堪える愚かな親友。
噴出しそうになるのをボクは
必死に抑えるのが大変だった。



ハル、ゴメンなだけどさ
卑屈なデブが
モテルわけないんだよ。
努力する前向きで
無難な男こそがモテル
それこそが
リアルつてもんだろ。

ボクは泣きじゃくる
雌ブタ奴隷の手を取って
病室を後にした。

洗脳完了



発行日 2012 05 06

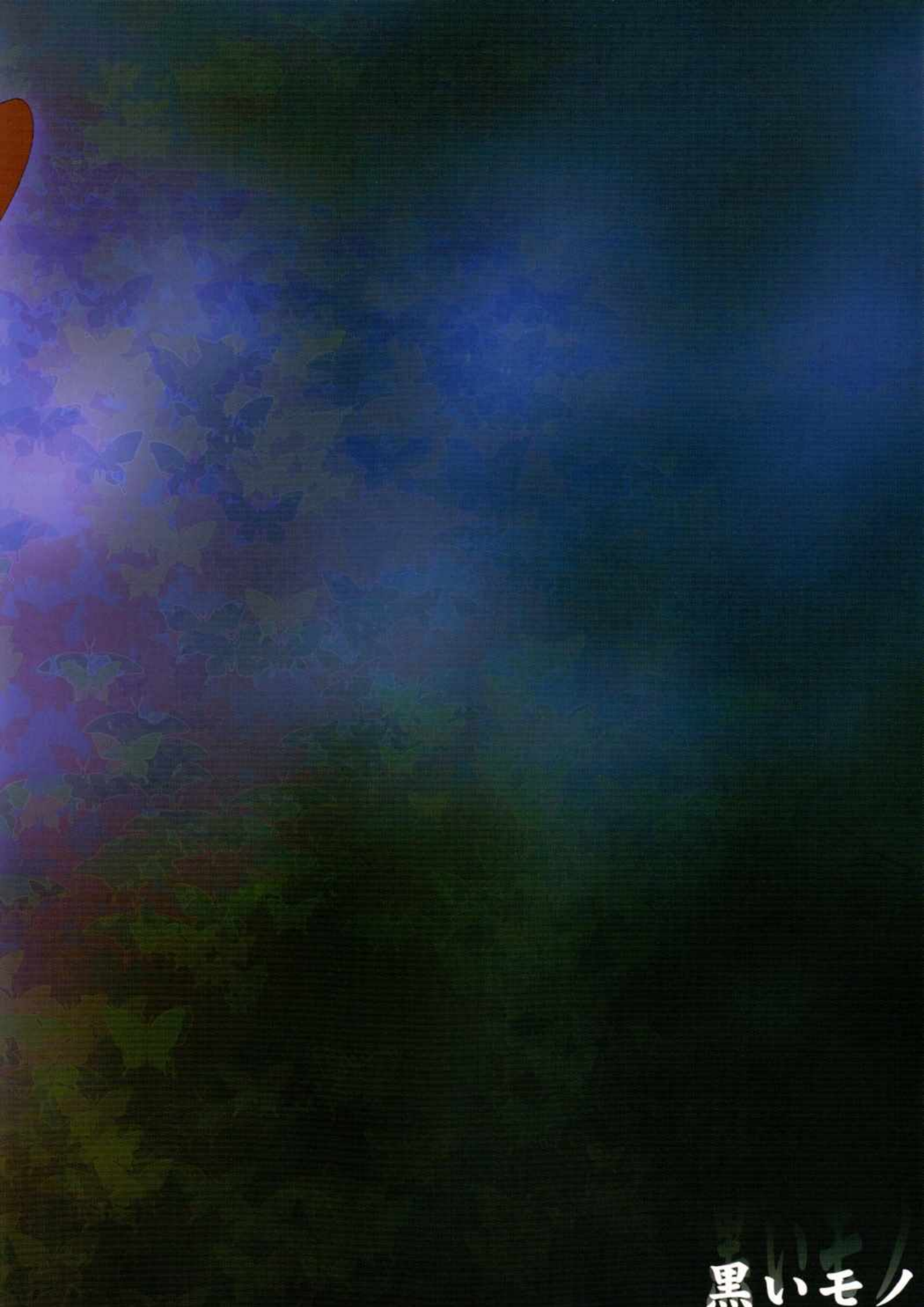
発行 黒いモノ
印刷 大陽出版 様
連絡先
akadamatenpo@yahoo.co.jp
[http://b.dlsite.net/
RG08665-kuroimono/](http://b.dlsite.net/RG08665-kuroimono/)

[注意]

この物語はフィクションです。実在の人物・団体・事件とは一切関係ありません。
本書籍は成人向けのため、18歳未満の方への配布はお断りさせていただきます。

また本作中で描かれる行為は、正しい性行為ではなく、犯罪です。
絶対に真似しないで下さい。

この本を発行した事によって発生する全ての権利は放棄されておりませんので、
スキャン画像の無断掲載や共有ファイルとしての利用行為はご遠慮下さい。



黒いモノ